

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3871500025
法人名	(有)やわらぎ
事業所名	グループホームやわらぎ川内
所在地	東温市南方1787-2
自己評価作成日	平成28年7月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年7月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・広い敷地を活かし、芋ほりや庭で花を育てたり土いじりをする事が出来る。また、動物との触れ合いも大切にしている。・日中、居室にこもらないよう声掛けし、一人一人に合った、フロアでの楽しみを見つけて頂けるよう、歌の会等の行事を取り入れ、またカラオケや買い物、温泉等の個別支援を大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

管理者が働きかけ、昨年、町内会長が町内会議の議事録を持参してくれるようになり、地域の情報を共有しやすくなっている。隣接の他介護施設やカトリック教会とは相互交流があり、教会で行われる結婚式を見る機会もある。又、週に1度の「歌の会」では、ボランティアのリコーダーに合わせて、利用者が独唱したりハーモニカを演奏する等、楽しく交流している。コーラス、手話等の地域ボランティアも積極的に受け入れている。地域の高校の介護実習生を受け入れた際には、運営推進会議に参加して感想を述べてもらった。近所のお堂まで散歩したり、喫茶店に出かけられるよう支援している。家族と散歩したり、温泉に出かけたりする利用者もある。利用者の希望に沿って、そうめん流しやサーカス、カラオケ等にも出かけている。6月は、庭のジャガイモ掘り、11月はサツマイモ掘りを楽しめるよう支援している。庭にテントを張って、桜やコスモスを見ながら手作り弁当を楽しめるような支援も行っている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームやわらぎ川内

(ユニット名) トトコの森 (B棟)

記入者(管理者)

氏名 竹崎 かなえ

評価完了日 平成28年 7月 1日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念を目に付きやすい場所に掲示し共有しながら日々の業務を行い実践に繋げている。 (外部評価) 法人理念を事業所の理念としており、共用空間に分かりやすく掲示している。1年ごとに目標を設定し、今年度は「一致団結」を目標として取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) ホーム内で犬を飼っており、子供達や近所の方が立ち寄って下さったり、野菜や花を持って来て下さったりし交流をしている。また、秋祭りの際神輿がホームに来て下さったり、隣の教会でのイベントにも参加させていただいている。 (外部評価) 管理者が働きかけ、昨年、町内会長が町内会議の議事録を持参してくれるようになり、地域の情報を共有しやすくなっている。隣接の他介護施設やカトリック教会とは相互交流があり、教会で行われる結婚式を見る機会もある。又、週に1度の「歌の会」では、ボランティアのリコーダーに合わせて、利用者が独唱したりハーモニカを演奏する等、楽しく交流している。コーラス、手話等の地域ボランティアも積極的に受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) やわらぎの研修にお誘いしたり、運営推進会議に参加していただく事で理解を深めて頂くようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 家族、地域の方にも参加して頂き2カ月に1回は、会議を行い意見交換やアドバイスを頂いている。また、研修会を行いサービス向上に繋げている。</p> <p>(外部評価) 会議は、偶数月の第3水曜日に居間でっており、利用者や家族、民生委員、地域の方、地域包括支援センターの職員が出席している。必ず、利用者にも発言の機会を設け、歌を披露したこともある。事業所の現状や取り組み、利用者の健康状態を報告し、毎回テーマを設定して意見交換している。外部評価実施後には、評価結果書類を見てもらいながら報告したり、テーマによっては、外部講師を招き研修を行っている。</p>	<p>現在、やや出席メンバーの固定化がみられるため、今後、利用者の暮らしを支えてくれる方達の参加を働きかけて、さらなるサービスの質の向上につながる会議に取り組んでほしい。管理者は「市の担当者の参加依頼を進めたい」と話していた。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 研修会になるべく参加するようにし、情報収集に努めている。また、些細な事でも連絡を取り相談、協力してもらっている。</p> <p>(外部評価) 地域包括支援センターの依頼で、地域の「サロン」活動の一環として施設見学者を受け入れている。地域の中学生在が毎年訪問してくれ、利用者と交流している。又、地域の高校の介護実習生を受け入れた際には、運営推進会議に参加して感想を述べてもらった。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束は、基本しない取り組みを行っている。但し、自傷行為のある利用者に対しては、正しく理解した上で家族の同意を得て片手のみミトン着用して頂いている。また、玄関は夜間のみ職員一人対応の為安全、防犯の為施錠しているが、日中は解放している。</p> <p>(外部評価) 身体拘束の研修は、法人内研修にて毎年実施している。現在、転倒予防等のため、家族とも相談しながら、夜間のみベッドの4点柵を使用しているケースが4例ある。ベッド柵使用状況については、個別の介護記録に毎日記載している。</p>	<p>今後も、利用者の自由で安全な暮らしの支援に向けてチームで話し合いながら、身体拘束をしないケアに工夫してほしい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 委員会を発足し、研修会を行っている。また、資料を共有し全員が理解し注意を払い防止に取り組んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会を設けているが、全員が学べてはいない。現在、利用されている方はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時説明を十分に行うようにしている。また、何かあればその都度話を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 2カ月に1回の運営推進会議に参加して頂き発言の場を設けている。また、利用者、家族の意見を尊重し、職員全員が周知するようしており、意見に沿えるよう努めている。 (外部評価) 毎月、担当職員が手紙で、利用者の健康状態や暮らしぶりを家族に報告している。海外在住の家族にはメールで伝えている。A4用紙両面の事業所だよりは、年1回発行している。昨年の事業所の夏祭りには5名、餅つき大会には2名の家族参加があった。毎朝、出勤前に食事介助に来る家族や、週に数回昼食介助に来る家族もある。	食事の内容や外出、日々の過ごし方等、家族が知りたい情報を探り、具体的に情報発信できるよう工夫してほしい。管理者は今後、「家族の意見や要望を集約できるような家族アンケートを実施したい」と話していた。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 意見や提案を職員会や連絡ノート、日々の申し送りの中で耳を傾け反映するようにしている。 (外部評価) 今回の自己評価は、全職員で取り組んだ。毎月の会議はユニット毎に行い、合同行事等の際には、両ユニットの担当職員で話し合っている。法人内研修は、年間計画に沿って、系列事業所ごとに持ち回りで担当している。管理者は「今後さらに、職員全員が同じ方向を目指していけるよう、意識統一を図り、さらなるチームワークづくりに取り組んでいきたい」と話していた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 個人面談などを行ったり、いいところをメッセージカードに記入し個々に渡すようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 事業所内の研修が充実してきており、勤務に支障がないようにしながら、機会を確保している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域の同業者間の交流を密に取るようにし質を向上させていくよう努めている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) コミュニケーションをできる限り取るようにし、困難な場合は家族の話を聞きケアプランを作成し職員間で把握し1日でも早く安心して生活が送れるよう努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の要望に耳を傾け、受け入れ時には協力を仰ぎながら関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族に話を聞き提案を行いつつ見極めを行い支援を行うようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 出来る事、得意な事を活かせるよう支援に努め一方的な介護にならないように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時等にコミュニケーションを取り、共に支えていくよう本人、家族の絆を大切にしながら支援している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 可能な限り、行事で外に出る際馴染みのある場所へ行くよう支援している。また、玄関はいつも開いており、いつでも面会できるようにしている。	
			(外部評価) 自宅の近所の方の訪問時には、居室でゆっくり過ごせるよう配慮している。利用者が家族に宛てて少しずつ書いた手紙を、1ヶ月ごとにまとめ、郵送できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価)	利用者同士の関係を把握し、食席、ソファの配置を工夫しコミュニケーションが上手く取れるよう支援に努めている。必要に応じ職員が間に入り、話を振ってみたり、共同作業などを行っている。
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)	契約が終了してもボランティアとして来て下さったり、野菜を持って来て下さったりしている家族もおり関わり合いは、大事にしている。
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)	日々のコミュニケーションの中で希望、意向を把握し本人の思いを大切出来る限り支援していくよう職員間で話し合い意思統一をはかっている。
			(外部評価)	
			アセスメントシートは1年ごとに見直し、思いや意向の把握に取り組んでいる。調査訪問時、「今日は天気がいいから、散歩に行きたい」という利用者があり、午後の散歩に付き添って出かけていた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)	家族、本人から話を聞き情報を集め、把握に努めている。また、部屋には馴染みの家具を置きなるべく今までの生活環境と変わらないようにしている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	出来る事、出来ない事を見極めた対応を行い日々の個別記録を残し現状把握に努めている。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>毎月の職員会で意見交換を行いより良い介護計画を作成している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護計画は、利用者や家族の意見、要望をもとに、職員で検討して作成している。日々の個別記録に計画内容を記載し、計画に沿った支援ができるよう工夫している。1ヶ月ごとにモニタリングを行い、6ヶ月ごとの見直しにつなげている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>日々の様子、気づきを個人記録や連絡ノートに残し申し送りを行い、職員間で情報を共有し見直しに活かしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>その時に必要な対応、サービス外の事でも申し送りや連絡ノート等で共有し柔軟な支援をするよう努めている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>お堂や神社まで散歩に行ったり、隣の教会の行事に参加したり、秋祭り、子供踊り、歌の会など楽しめるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>医療機関は、家族、本人の希望を大切に支援し少しでも異変があれば、直ぐに協力医に連絡し早めの対応に努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>以前からのかかりつけ医を家族が付き添い受診支援する場合は、家族に1ヶ月間の個別記録を渡して、医師との連携を図れるよう支援している。訪問歯科を利用できるようになっている。利用者1名のみ睡眠剤を服用しており、医師と相談しながら支援している。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>看護職員はいませんが、看護師の資格のある介護職員がいるのでその都度相談し嘱託医に連絡し適切な対応出来るようにしている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入院した際にはお見舞いに行き、出来る限り情報を伝えたり集めたりし、情報交換を行い1日でも早く退院できるよう支援している。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>早い段階から話し合いをしている場合でも何かあればその都度家族と話し合い支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>入居時に、「重度化した場合における対応に係る指針」を提示し、家族に説明している。多くの家族は「事業所での看取り」を希望している。利用者によっては、日々の会話の中で「最期までここにおりたい」と意思表示する方もある。昨年から今年にかけては、2名の利用者の看取りを支援した。看護師資格を持つ職員が中心となって、最期まで口から食べられるよう支援したケースがある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時の緊急連絡網、マニュアルを作っているが、定期的な訓練は行っていない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 近所の方にも協力をお願いしている。年に2回避難訓練を日中、夜間、火災、災害を想定し行っている。	さらに、隣接の他施設と連携した訓練の実施や地域の防災訓練への参加、又、運営推進会議で話し合う等、地域との協力体制の整備に取り組んでほしい。
			(外部評価) 年2回、避難訓練を実施している。地震想定で実施した際には、手作りの防災頭巾を利用者に着用することを忘れてしまったことがあり、落ち着いて避難することの重要性を学んだ。現在、非常用持出袋1個をスタッフルームに設置しているが、今後、別の場所にもう1個設置する予定がある。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉を選んだりし、自尊心を傷つけないよう声かけを行っているが、出来ていない時もある。	利用者への言葉かけや対応については、ケアの質にも大きくかわることもあることを踏まえ、今後さらに、職員間で「利用者にとってどうか」という視点から話し合い、共通理解を深めながら取り組みを重ねてほしい。
			(外部評価) 利用者に対して、馴れ馴れしい態度や言葉かけがみられた際には、その都度管理者が指導している。利用者個々に、庭の手入れ、読書、「お茶会」の終わりの一本締め、楽器演奏等、楽しみごとや役割を持てるよう取り組んでいる。中学生との交流をきっかけに、塗り絵が得意なことが分かり支援しているケースがある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 出来るだけコミュニケーションを取り自己決定して頂けるよう働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)	やむを得ず職員側の都合を優先させてしまうこともあるが、出来る限り利用者の思いを大切にし希望に添えるよう支援に努めている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価)	出来るだけ利用者の好みの洋服を着ていただいている。毎日口紅を塗られている方もいる。無くなれば、一緒に化粧品を買いに行くこともある。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価)	簡単な下ごしらえや食器洗いをお手伝いして頂いている。また、誕生日には本人の好物をお出している。
			(外部評価)	「野菜中心の食事づくり」に取り組んでおり、ユニット毎に献立を立てて食事を作っている。職員も一緒に、同じものを食べながら支援している。調査訪問時には、家族が手作りの桃のコンポートが添えられていた。食器洗いや食器拭きをしている利用者がみられた。誕生日には、利用者の希望に沿って、刺身や焼き肉、すきやき等で祝っている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価)	個別に刻み、荒刻み等形状を変えたり、量を調節し提供している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価)	毎食後口腔ケアの声かけを行い必要に応じ介助を行っている。また、月2回訪問歯科医が来られアドバイスを頂き個々に合った対応をしている。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>排泄チェックシートを作成し、排泄パターンを把握し出来るだけトイレで排泄できるよう支援に努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>共用トイレを使用することが苦痛な利用者には、居室にポータブルトイレを設置しており、排泄習慣が落ち着いた。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>個別にヨーグルト、ヤクルトを摂って頂き自然排便できるように支援している。また、薬の副作用の影響も頭に入れている。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>いつでも入れるようにはしているが、お風呂嫌いの方やホームの都合もあり3日に1度のペースになっており、すべて希望どおりにはなっていない。</p> <p>(外部評価)</p> <p>3日に1回、午後に入浴できるよう支援している。重度の利用者も湯船に浸かることができるよう、職員2人で介助して支援を行っている。入浴を拒む利用者には、脱衣所の温度を好みの温度に調節したり、言葉かけに工夫したりして入浴につなげている</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者のリズムに合わせており、眩しいという事があればカーテンを閉めたり、寒いという訴えがあれば肩まで布団をかけたり快適に過ごしていただけるよう工夫をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価)	連絡ノートや服薬情報のファイルを作り、全員が周知出来るようにしている。又、少しでも様子がおかしいなら協力医と相談出来るようにしている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価)	個別支援でカラオケに行かれたり、洗いものが好きな利用者には食器洗いをしていただいたりと、個々に出来る事を話し合って支援を進めている。
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価)	家族と共に出かけられている方もいる。天気のいい日に要望があれば散歩に出かけたり、イベント時には遠出を行っている。
			(外部評価)	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)	お小遣いは事業所が管理しており、利用者は所持していないが、外に出かける機会を設けお金を所持し利用できる機会を設けている。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)	本人が所持している方もおり、自由に使用して頂けるよう支援している。又、持たれてない利用者は手紙や、家族が本人に代わって欲しいと要望があれば代わり話されている。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 天井の窓を開けてり、壁には季節の物を貼ったり、食卓には季節の花を生けている。利用者が不快に感じたら取り外すようにしている。</p> <p>(外部評価) 各ユニットは、それぞれ独立した平屋で、天然木を使用している。玄関前には、松や庭石が配され、プランターに季節の花を植えている。庭先で犬を飼っており、利用者や近隣の子供たちがふれ合っている。吹き抜けの共用空間は、天窓から自然光が差し込んでいた。各所にソファが配置され、調査訪問時、テレビの前のソファで、ビーズ細工を楽しむ利用者がみられた。ユニットによっては、みなで応援の旗を持って高校野球を観戦することもある。小上がりの畳コーナーでインコを飼っており、コーナーに座り職員とおしゃべりしながら過ごしてる方がいた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 個室で過ごされたり、フロアのソファにて定位置がある利用者もいる。色々な場所にソファや座れるスペースを配置してあり移動して色々な所に座られる方もいる。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 本人の使っていた布団や衣服を持ってきていただいて落ち着ける空間にしている。壁には家族との写真などを貼っている。</p> <p>(外部評価) テレビやタンス等を持ち込んだり、仏壇には利用者が折った折り紙を飾っている方もあった。家族からプレゼントされた沢山のぬいぐるみを飾っている方もいる。壁には、家族の写真や自作の塗り絵、カレンダー等が貼られていた。ハンガーラックに、洋服をかけている方もいる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) フロア、浴室、トイレには手すりがあり、本人が安全かつ自立できるよう工夫している。床にトイレの表示をしたり、居室横には本人のネームプレートを設置している。</p>	